

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



本部企画：国際シンポジウム「武道の捉え方ー世界の動向ー」

日本武道学会 創立 45 周年記念大会

(9月6・7日 東京農工大学)



一般研究発表



ポスター発表



本部企画「武道の捉え方―世界の動向―」

日本武道学会第45回大会は9月6、7日の2日間にわたって、東京農工大学・小金井キャンパスで行われた。

両日とも午前中は一般研究発表として、人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系、ポスター発表が行われ、午後は初日が、総会と本部企画として、「国際シンポジウム『武道の捉え方―世界の動向―』」が行われ、夜はレセプションが開かれた。また、2日目午後は柔道、剣道、弓道、空手道、なぎなたの専門分科会がそれぞれ開かれた。

●一般研究発表

▼人文・社会科学系

○松本龍弥(東京都柔道連盟研究委員会)

『古式の形』から採り入れられた『柔の形』の技法について

古式の形と柔の形における技法の関連と相違を明らかにするため、2つの形を比較。一例として「帯取^{おびとり}」と「力避^{りよくひ}」「水車^{みずぐるま}」の類似を映像で示した。相違点としては手の交差が「帯取」と「力避」「水車」では逆になることを指摘。さらに嘉納治五郎の言葉を引用して、その関連性を明

日本武道学会 創立 45 周年記念大会



東京農工大学・小金井キャンパス



らかにした。

最後に、形の修行は、相手の攻撃に応じる心の状態を養い、己の完成という柔道修行の究極の目的を達成するためにあると結んだ。

○原口理恵子（筑波大学大学院）

「武道関係用語に関する研究—古典文学を中心に—」

武道関係用語が歴史の中でどのように使用されてきたのかを明らかにするため、武道流派が成立してくるまでの14世紀以前の文学作品を対象として武道関係用語を全て抽出し、整理分析を行った。武の総称に関する用語としては「兵」「兵法」「武藝」「文武の道」「武藝の道」「武道」「武藝のみち」「弓馬之藝」「武勇ノ藝」「文武ノ藝」「兵道」「弓ひく道」などが確認された。特筆すべき結果と

して、「武道」の用語の初出を『吾妻鏡』とする先行研究があるが、それ以前の『保元物語』で確認され、鎌倉時代のこの辺りに「武道」の初出を見出せることが示唆された。

▼自然科学系

○井出敦夫（東京大学赤門弓友会）

「和弓における『弓返り』に関する一考察」

はじめに弓返りに関するアンケート結果を発表し、弓返りについて、いろんな解釈がなされており、専門家の研究においても、意見が分かれていることを紹介。矢の加速度と弓本^{もと}の並進加速度と弓幹回転の角速度の相関から、弓返りが矢を加速させていることが示された。

○村山晴夫（獨協医科大学）

「柔道における頭部外傷予防のためのアンダーマットの有効性」

柔道における頭部外傷の発生機序を明らかにし、効果的予防対策を講じるため、ダミーを使って投技による頭部への衝撃力を測った。それにより、衝撃を軽減する手段としてのアンダーマット使用の有効性を検討した。



一般研究発表



ポスター発表

その結果、大外刈と大内刈で頭部に加わる衝撃は、アンダーマットを敷くことで緩和されたとした。そして、頭部外傷を予防するために、畳周囲の安全環境を充実させる必要があると結論つけた。

▼武道指導法系

○大保木輝雄（埼玉大学）

「武道の教材化に関する一試論(3)―生きる姿勢とその身心技法―」

武道を教材化するために剣道の「一本」に着目し、①暗黙知を誘発させる場に臨んだ時の感覚を味わわせる、②身構え、気構え、心構えの

工夫により、臨機応変の対応ができることを実感させる、③「一本」が正しい姿勢から繰り出されることを体感させることで、心と体を一体として働かせることの意味と価値を考えさせ、その結果である「一本」の出来栄えが、その人の「生きる姿勢」として表現されていることを理解させることが重要であると述べた。

○渡辺冬花（千葉大学教育学部附属中学校）

「若手女性教員による中学校体育における柔道指導の実践報告」

千葉県内の女性保健体育科教員にアンケート調査を行った結果、約9割が武道指導に不安を持っているこ

とがわかった。平成23年11月に中学1年女子生徒31名を対象に柔道経験のない女性教員（教員歴4年）が検証授業を行い、指導ことばに着目して、生徒の技能向上と安全な授業の実践を検討した。結果、適切な指導ことばを用いることによって、柔道指導経験の少ない女性教員でも、安全に相手との攻防を楽しませる授業を展開することができたとした。

▼ポスター発表

○佐藤明（東北大学）

「礼法家の歩行」

足腰を鍛えることを目的とする礼法家の歩行と通常歩行の間で、酸素摂取量と下肢筋電図パターンを比較した。酸素摂取量は礼法歩行が通常歩行より高かった。筋電図パターンも礼法歩行が通常歩行の値より大きく、常に筋が緊張した状態が維持されていること、膝を曲げないため大腿直筋、内側・外側広筋が働くこと、踵を上げないため背屈動作が終始行われていること、爪先を上げないため底屈動作の腓腹筋も活動しているという結果を得た。よって、礼法歩行は速度は遅いが筋の活動量は大き

く、足腰を鍛えるという主旨に適う歩行様態であることが示唆された。

●総会（6日）

総会では優秀論文の表彰が行われ、続いて、百鬼史訓日本武道学会会長・東京農工大学副学長が挨拶に立った。

「45周年という節目の大会を開催させていただき、ありがとうございます。今回のテーマは武道の捉え方、世界の動向ということですが。海外の研究者が武道に対してどのように考えているのか。外国人が武道をどう



優秀論文表彰者＝左から射手矢岬（東京学芸大学）、金持拓身（順天堂大学）、大石純子（八洲学園大学）

考えているのか。シンポジウムをすることでお互いを知ることには大きな意味があると思います」

議事進行は射手矢岬（東京学芸大学）、佐藤明（東北大学）の両氏が行った。はじめに名誉会員の推挙が行われ、若尾重廣氏が名誉会員となった。続いて、平成23年度の事業報告と決算、平成24年度の事業計画と予算について諮られ、いずれも承認された。また、第46回大会が国際大会として、平成25年9月10～12日の3日間、筑波大学で開催されることが承認された。

●本部企画（6日）

続いて、本部企画として、国際シンポジウム「武道の捉え方―世界の動向―」が、パネリストに百鬼会長、キム・ジョンヘン大韓武道学会会長、W・J・シナルスキー国際マリーシャルアーツ格闘技科学学会会長を迎えて、大保木輝雄埼玉大学教授、アレクサンダー・ベネット関西大学准教授の司会で行われた。

各パネリストの紹介後、まず百鬼氏の発表がなされた。

百鬼氏は武道を世界に発信してい



W・J・シナルスキー氏



キム・ジョンヘン氏



百鬼史訓氏

く上で、固有性を明確にし、まとめで発信することが大事であるとした。武道の英訳としては、一般的にはマリーシャルアーツで構わないが、その意味はずいぶん広がっており、武道はそのままマリーシャルアーツとはならなくなっているとし、武道と

「武道、マリーシャルアーツ、コンバットスポーツ――その定義、理念、理論――」

(Budo, Martial Arts and Combat Sports—Definitions, Ideas, Theories)

W・J・シナルスキー国際マリーシャルアーツ格闘技科学学会会長

体系的かつ多次的なアプローチによって理論的な概念の研究が行われる中で、武道は現在、教育体系、道徳、自己向上、精神的向上を目指す道として認められている。

マリーシャルアーツとは、スポーツ、護身、自己防衛の手段として理解されている。しかし、一般の見方になると、いろいろな定義が膾炙され、間違った理解が生まれている。しかし、マリーシャルアーツとは何か。いくつかは民族、文化、宗教的な背景を元に構築された伝統的なものである。一方、その他は近代的なもので、ある創始者が作り出したものも存在している。

私の意見では、マリーシャルアーツは伝統に基づいた徒手、あるいは武器を用いた戦闘技法と人間形成の融合であり、精神と身体の上を目指すものである。同時に教育のプロセスであり、自発的な苦行を求めるプロセスでもある。このプロセスでは身体への鍛錬と意図的な自立、技法鍛錬が融合しており、道徳的、精神的な向上を目的としている。

マリーシャルアーツについて一般理論があるならば、用語の範囲、また

は適切な名称を考える必要がある。しかし、道、スポーツ、自己防衛といった様々な活用法を一つの名称で網羅することは難しい。

技、形、戦いの行動を組み合わせるものにファイティングアートという用語があるが、ファイティングアートの大きな円を形成しており、その中にマリーシャルアーツ、コンバットスポーツあるいは武道が位置づけられると私は理解している。

コンバットスポーツという用語は対峙という形を表す時に使われている。レスリングやボクシングは典型的なヨーロッパのコンバットスポーツであり、一方、剣道、空手といった日本のコンバットスポーツはマリーシャルアーツの特性を維持している。これらはいずれも戦闘の技能を身につけるもので、ファイティングアートの枠内にある。

元々のマリーシャルアーツは戦闘技術の伝授だけではなく、教育体系も意味し、実用的な医学をも含んだ特定の知識の伝授も含まれている。

武道の受容は、社会文化的現象としての科学的かつ大衆的反応の結果であるとみることができる。

マーシャルアーツ、さらにコンバットスポーツの関係性について、疑問があるとした。その上で、英訳せずに武道という言葉そのもので発信することを提案した。

続いて、キム氏が発表した。

まず古代からの韓国の武術について振り返り、新しい武術として自分で考案したヨンムドゥを紹介された。近年の異種格闘技の流行で、伝統武術の価値の変容を危惧しており、スポーツと同じく、武術も身体と精神を鍛えるものであるとした。

最後にシナルスキー氏の発表がな

された(別掲)。

質疑応答では、シナルスキー氏の発表したファイティングアーツについてや、キム氏が創作したヨンムドゥについての質問が相次いだ。

最後に百鬼会長が「用語の問題は非常に難しいですが、『武道』という言葉そのものを説明しなくてもわかるようになるくらい発展していけばいいな」と思っております。今回は海外からお二人の先生をお招きして大変有意義な時間を過ごすことができましたと思っております」とまとめて盛会裡に幕を閉じた。

●専門分科会

▼柔道

「子供(小学生)の柔道指導について」と題して、向井幹博(講道館道場指導部課長)、岡田弘隆(筑波大学准教授)、溝口紀子(静岡芸術文化大学准教授)の三氏を講師に、高橋進(大東文化大学教授)の司会でシンポジウムが行われた。

まず、向井氏が発表。氏が講道館に勤務した頃は対外試合を行っていなかった講道館少年部が対外試合を行うにいたるまでの経緯や、行われ

ていなかった昇級審査を実施するにいたった経緯を述べた。

続いて、岡田氏が発表。筑波大学が行っているつくばユナイテッド柔道の活動について、現状を紹介した。初期は試合を行っていなかったが、競争したい子供が多く、試合出場がモチベーションの向上につながることから、徐々に試合に出場し始め、今では多数の大会に出場していることが発表された。

最後に溝口氏が発表した。フランスでは指導者は国家資格であり、級



柔道専門分科会発表者＝左から溝口紀子(静岡芸術文化大学)、岡田弘隆(筑波大学)、向井幹博(講道館)の三氏

に応じた指導基準が定められていること、また、試合開始年齢も13歳であり、それ未満で試合を行うことが禁止されていることが紹介された。その上で少年柔道こそ形を学んだ方がいいとし、本当の柔道は勝つだけではなく、柔道が見直されるきっかけとなるのではないかと結んだ。

▼剣道

中学校で武道が必修となったことから、剣道具の文化・伝統や安全性について検討するため、「あらためて、剣道具を考える」と題し、中村民雄(福島大学)、百鬼史訓(東京農工大学)、森下捷三(全国剣道具職人会代表)の三氏が発表を行い、質疑応答が行われた。

中村氏は「剣道具の歴史研究から」と題して、防具の発生、その後の変遷と、それに伴う技の変化について、史料をもとに解説した。

百鬼氏のテーマは「剣道具の実証的研究の立場から」。海外生産剣道具の急増などにより、更なる安全対策が必要とされていることから行った緩衝性や遮音の実験結果を報告し、安全規格の見直し、感傷性の高



フロアからも積極的な質疑が続いた



剣道専門分科会

い剣道具の開発、安全規格遵守のための検定制度の必要性を提唱した。森下氏は「剣道具製作者の立場から」として、伝統的な剣道具の素材の見本を提示しながら、最近の海外で大量生産される剣道具の問題点を指摘した。

質疑応答では、剣道具の手入れ方法についての質問や、誰もが共通に

認識できる安全基準を作ってほしいなどの意見が出た。また、全日本武道具協同組合理事長の森伸雄氏は、必修化に伴い安価な海外製の粗悪品が一部の学校現場に出回っている問題があり、今後どのように製品をチェックしていくかが大きな課題だと報告した。

▼弓道

「『肩甲帯の技術を探る』—上腕骨、肩甲骨、鎖骨、胸郭の筋骨格系と射技—」をテーマにシンポジウムが行われ、佐藤明氏（東北大学）と井出敦夫氏（東京大学赤門弓友会）が講演された。

佐藤氏は、「運動学から見る射法の筋骨格系」と題し、特に、小笠原流の『体用論』、日置流の『弓目録六拾ヶ条』を参考に射法の組み立て方を解説し、そして、人体には約206の骨、265の関節、600の筋肉（内、骨格筋は400）があり、その運動の自由度は計り知れないことから、再現性を高めることは難しく、個々の素質の問題も多分にあると述べた。

井出氏は、「射技と肩甲帯のバイオメカニクス」と題し、弓射動作に

ついて、バイオメカニクス、解剖学・生理学及び力学の観点から解説した。そして、弓射動作は腕の運動ではなく、肩甲骨の運動として意識を切り換えて行うべきであるとし、また今回、洋弓の射技動作との比較研究による成果を踏まえ、今後の共同研究などを提言した。

▼空手道

前半に「中学校武道必修化について保健体育科目大学教員の視点から」と題したシンポジウムが開かれた。司会を横山慶一氏（京都府立医科大学）が行い、奈藏稔久（国際武道大学）、飯出一秀（環太平洋大学）、麓正樹（東京国際大学）、谷木龍男（清和大学）、井下佳織（国際武道大学）の五氏がそれぞれ、自らが授業した対象やその問題点、授業を通じた中での発見について述べた。

それぞれの発表の中から、礼法の指導、自己認識、危機管理、身体運動としての空手道の魅力をキーワードとして挙げ、フロアとの積極的な意見交換が行われた。

後半は、「空手道の国際化」と題して、豊嶋建広氏（麗澤大学）が講

演を行った。豊嶋氏は日本人と外国人の文化の違いを挙げ、国内外で空手道に取り組む人の意識の違いについて言及。スポーツと混同されないためにも、空手道の歴史や哲学を学術的に研究し、日本語と英語で論文発表していかなくてはならないと述べた。

▼なぎなた

座長を木村恭子氏とした討論会「指導現場からの報告と問題提起」が行われ、福田啓子氏（皇学館大学）による「なぎなたの現場指導からの報告と課題」、柳世紀子氏（奈良県なぎなた連盟）による「奈良市なぎなた連盟（西の京クラブ）の歩みと課題」、井上アヤ子氏（創価大学）による「創価大学における共通科目体育実技なぎなた授業の現状と課題」の三題の発表が行われた。



日本武道学会第45回大会を終えて

第45回大会事務局長 田中 幸夫（東京農工大学）



会場となった東京農工大学

日本武道学会創立45周年記念大会は、9月6日～7日の2日間、東京農工大学小金井キャンパスにおいて開催されました。東京農工大学での開催は第17回大会、第35回大会に次いで3回目の開催となりました。今回の記念大会では、特別企画として海外から研究者を招待し、「武道の捉え方―世界の動向―」という題目で国際シンポジウムを行いました。

◇研究口頭発表・ポスター発表

研究発表は、人文・社会系16題、自然科学系18題、武道指導法系22題、ポスター発表24題の計80題の一般研究発表がなされました。ここ数年来、発表件数は80題を越え、武道学会員の皆様の日頃の研究の成果がここに現れ、大会実行委員会としては嬉しい次第でした。

今大会の研究発表は、各自のノートパソコンを持ち込み、プロジェクトと接続していただくという形式を取りましたが、発表者のご協力、理解のもと、大きなトラブルもなく、スケジュールをこなすことができました。実行委員会一同、安堵いたしました。

ました。学会員みなさまのご協力に感謝いたします。

◇本部企画 国際シンポジウム

創立45周年記念大会の本部企画として「武道の捉え方―世界の動向―」という題目で国際シンポジウムを開催いたしました。開催に先立ち、大会委員長である東京農工大学副学長・百鬼史訓先生より、開催校としての挨拶がありました。引き続き、埼玉大学・大保木輝雄先生、関西大学・アレキサンダー・ベネット先生の司会で、シンポジウムが始まりました。パネリストとして日本から日本武道学会会長の百鬼史訓先生、韓国からヨンイン大学総長、大韓武道学会会長のキム・ジョンヘン先生、ポーランドからジェーシユフ大学教授、授で、International Martial Arts and Combat Sports Scientific Society 会長のW・J・シナルスキー先生の3名をお招きしました。

最初のパネリストである百鬼史訓先生からは、「世界における武道の捉え方」という題目で発表があり、武道、Budoという言葉の意味内容が一般に翻訳されている Martial

Arts では言い表せないのではないかと。また、あえて武道を Martial Arts と英訳する必要はなく、今日的に武道と Martial Arts の差異化を図り、世界的には武道は Budo として定着していくことが望ましいのではないかと考えを述べられました。

続いてキム・ジョンヘン先生からは、「韓国武道の展望」ということで、現代の韓国武道の隆盛と問題点について述べられました。韓国での柔道やテコンドーの人気はオリンピック種目に取り上げられ、世界化されたことによる。しかしこのことによつて、武道のスポーツ化や過度の商業主義による弊害がみられるようになった。また、社会情勢や教育環境を鑑みると、韓国における武道スポーツの発展的展開は容易ではない。しかし、身と心、そして精神を同時に修練する武道がこれらの問題を解決してくれるのだと確信しているという考えを述べられました。

最後にW・J・シナルスキー先生から、「武道、マーシャルアーツ、コンバットスポーツ―その定義、概念、理論―」という題目で発表がありました。ここではマーシャルア



本部企画国際シンポジウムの様子

ツ、コンバットスポーツについて概念を述べられ、武道Endoの位置付けもなされ、それぞれの言葉・概念は内容を部分的に包括しているが全体を網羅した概念ではない。そこでシナルスキー先生からは武道、マリーシャルアーツ、コンバットスポーツの上位概念として「ファイテングアーツ」という言葉・概念が提案されました。

3名のパネリストの発表の終了後は、150名以上の参加者のフロアも交

◇専門分科会

えた討論となりました。パネリスト同士の意見交換、フロアからの活発な質疑応答があり、3時間のシンポジウムはあっという間に終了時間となり、成功裏に終わりました。今回の国際シンポジウムによって、武道の国際化を図る上で、参加者の皆様それぞれに有益な示唆が得られたものと思います。

2日目の午後より、柔道、剣道、空手道、弓道、なぎなたの専門分科会が開催されました。柔道専門分科会では「子供（小学生）の柔道指導

について」、剣道専門分科会では「あらためて、剣道具を考える」、空手道専門分科会では「空手道の国際化」、弓道専門分科会では「肩甲骨の技術を探る」というテーマで各専門分科会が開催されました。

◇理事会・評議会・総会

大会前日の9月5日に理事会および評議会が、翌6日には総会が開催されました。各議案の審議・報告が承認され、最後に、次回第46回大会が、2013年9月10日・12日に筑

波大学で開催されることが決定されました。

総会に先立ち、2011年度の優秀論文賞が発表となりました。受賞者は、八洲学園大学・大石純子先生（受賞対象論文は「朝鮮李朝期の武芸書にみられる漢字『劔』の使用に関する一考察」）、東京学芸大学・射手矢岬先生（「柔道実践者の継続理由に関する研究」）、順天堂大学・金持拓身先生（「柔道『投げの形』における評価の類似性と観点に関する研究」）の3名で、百鬼史訓会長より表彰状と金一封が贈呈されました。

◇おわりに

今回は、会員190名、臨時会員19名、学生会員8名、顧問等4名、計225名という多くの方の参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。また今大会は、創立45周年記念大会ということで、初めての国際シンポジウムを学会本部で企画され、開催されました。本学会の企画委員会、庶務委員会の皆様、また、その他通訳を含む学会関係者の皆様、大変だったろうと思いますが、

無事、終了し、開催校として安堵いたしましたしております。また、レセプションでは山西哲郎日本体育学会会長、新井庸弘少林寺拳法連盟会長、三藤芳生日本武道館理事・事務局長、桑森真介日本相撲連盟の臨席を賜り、祝辞等をいただき、誠にありがとうございました。末尾ながら（財）日本武道館をはじめとして、ご協力・ご支援いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。



ポスター発表の様子

好評発売中



スポーツドクター 辻 秀一 著
四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、
芸術である、コミュニケーション
である、教育である」とする筆者が、
指導者のために書いた良きハンド
ブック。ぜひ、ご一読を。



主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

ほんとうの価値の伝え方

武道スポーツの真髄



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）

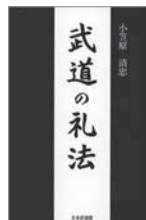


武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



＜増補版＞ 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）

組手団体・一般男子

偶成会高木道場が

11年ぶり2回目の優勝



組手団体・一般男子代表戦＝偶成会・重江（左）が東大拳法会・西村を上段蹴りで攻める

和道会全国空手道競技大会

第48回和道会全国空手道競技大会は、8月18日（千葉県浦安市運動公園総合体育館）と19日（日本武道館）に開催された。

大会には、小学生からシニアまで約3千名の選手が出場し、組手（団体・個人戦）と形（個人戦）の試合が全42部門で行われ、熱戦が展開された。

◆組手団体戦

◎一般男子の部（5人制）

17チームが出場。決勝は偶成会高木道場と東京大学拳法会が対戦した。

先鋒戦、偶成会・塚田と東大・阿部は2―2で引き分ける。次鋒戦は、東大・西村が偶成会・高橋を9―1で圧倒する。しかし、中堅戦では偶成会・重江が8―0で完勝して五分に戻す。副将戦は、偶成会・本橋と東大・柴山が対戦し、柴山が先にポイントを挙げるが、本橋が追いついて、更に残り20秒で突きを決め、2―1で勝利した。

大將戦、偶成会・末吉と東大・川



開会式の様子

村の試合は、序盤から得点の奪い合いとなり白熱する。そして6―5の川村リードで迎えた終盤、川村の上段突きが強打の反則となり、末吉に1ポイント加わる。そして更にポイントを取り合って試合は終了し、8―7で川村が勝利した。その結果、勝利者数、得点数が共に同点で、代表戦となる。

代表戦は、偶成会・重江と東大・西村が対戦。序盤、重江が猛攻して先制。しかし、西村も中盤に突きを決める。その後一進一退の攻防が続



組手団体・一般女子先鋒戦＝立教大・豊泉（右）の上段蹴りが東洋大牛久高・高島に決まる

立教大が 2年ぶり2回目の優勝

組手団体・一般女子

くも互いにポイントを奪えず、1で試合終了。旗判定となり、4で重江に軍配が上がる。偶成会が11年ぶり2回目の優勝を果たした。

●優勝Ⅱ偶成会高木道場・

高木秀應監督

「久々に優勝できて嬉しいですね。最後はエースが決めてくれました。他の選手も頑張ってくれました。これからも優勝できるように、皆で一生懸命稽古に励みたいと思います」

◎一般女子の部（3人制）

17チームが出場。決勝には、昨年準優勝の立教大と、初めて決勝進出を果たした東洋大学付属牛久高校が勝ち上がった。

先鋒戦は、立教大・豊泉が9―1で東洋大牛久高・高島を寄せ付けずに勝利。次鋒戦は、東洋大牛久高・丸石が先にポイントを重ねるが、次第に立教大・五十嵐が冷静に捌いて突きを決めて逆転する。9―6で試合は終了し、立教大が一人残しの2―0で、2年ぶり2回目の優勝を遂げた。

●優勝Ⅱ立教大学・池田昌史監督

「チームワーク良く、一人ひとりが

気負わずに自分の空手に徹したので皆の持ち味が出せたと思います。後期の学連の試合に繋がる良い結果にもなりました」

◎大学生男子の部（5人制）

12チームが出場。昨年、準決勝で東海大に敗れ、連覇を逃した明治大は、準決勝で東海大に雪辱して決勝に進出。一方、昨年優勝の東京農業大は準決勝で北海道工業大を降して決勝に勝ち上がった。

決勝は、明治大の先鋒・清水、次鋒・金澤、中堅・久保田がそれぞれ勝ち、2人残しの3―0で明治大が優勝に返り咲いた。

◎都道府県対抗（5人制Ⅱ先鋒・小

学生、次鋒・中学生、中堅・高校生、副将・一般女子、大将・一般男子）

8チームが出場。決勝は、昨年と同じ埼玉と愛知の対戦となった。先鋒戦は埼玉・大谷が勝利し、次鋒戦は愛知・前泊が勝利した。そして、中堅戦で埼玉・岩崎が接戦を制すると、埼玉の副将・小池も勝利して優勝を決めた。大将戦でも埼玉が勝ち、4―1で連覇を果たした。

都道府県対抗決勝・先鋒戦Ⅱ
埼玉・大谷（左）の中段突きが決まる



組手個人・一般男子決勝Ⅱ
重江（右）の中段突きが決まる



組手個人・一般女子決勝Ⅱ
矢野（左）の上段突きが決まる



●優勝Ⅱ埼玉県・荒川尊祐監督

「途中苦しい場面もありましたが、乗り越えて優勝できました。いくつかの道場の混成チームですが、チームワークも取れ、副将と大将がきちんと仕事をしてくれました」

◆組手個人戦

◎一般男子の部

決勝は、3年ぶりの優勝を狙う重江賞誉（偶成会高木道場）と長畑翔（岡山）が対戦。序盤から重江が長畑を翻弄し、試合は重江のペースで展開。開始から1分、重江の中段突きが決まって1―0。長畑も反撃す

るが重江に見切られる。残り1分、重江が足を掛けて長畑を倒して突きを決め、これが一本となり、重江が4―0でリードする。なおも、重江は蹴り技を主体に間合いをコントロールして長畑を寄せ付けない。試合終了となり、重江が3年ぶり3回目の優勝を成し遂げた。

●優勝Ⅱ重江賞誉選手



（偶成会高木道場）

「久しぶりの試合で、体力的にも少し衰えていました。調子も今一つでしたが、集中することができたので勝ちに繋がったと思います」

◎一般女子の部

決勝は、矢野朱美と豊泉諒子の立教大同士の対戦となった。

共に手の内を知り尽くした相手だけに、序盤は試合が動かず膠着状態が続く。しかし、開始から1分30秒、矢野が連続攻撃で豊泉を崩して上段突きを決めて1ポイント先制する。試合が再開すると矢野が間髪を容れずに猛攻を仕掛け、上段突きを決めて2―0となる。挽回したい豊泉であったが、矢野は隙を見せずに互いに攻防を繰り返すうちに試合終了。矢野が嬉しい初優勝を果たした。

●優勝Ⅱ矢野朱美選手（立教大）



「学連と違ってメンホーを着けていたことと、手の内を知る相手との対戦も多くて、やり難いところもありました。でも調子は良かったので、何とか相手の隙を見つけて入り、勝つことができました」

◆形個人戦

◎一般男子の部

46名が出場。決勝は、昨年優勝の古橋卓也（名空会本部）を準々決勝で降した稲葉勇治（中京会）と、一昨年優勝した稲葉大輔（中京会）との兄弟対決となった。兄の勇治はクイッシュンク1、弟の大輔はチントウを演武し、3―2で兄の稲葉勇治が初優勝を手にした。

●優勝Ⅱ稲葉勇治選手（中京会）

2年前、弟・大輔が優勝したとき、兄・勇治は準決勝で敗れ、決勝進出





形個人戦・一般女子の部
優勝＝岩本衣美里「チントウ」



形個人戦・一般男子の部
優勝＝稲葉勇治「クーシャンクー」

を逃したため、今回が全国大会で初の兄弟対決となった。

「楽しく戦いたいという反面、弟には絶対に負けたくないという気持ちもありました。これからも形は稲葉兄弟と言われるように2人で頑張っ

ていきたいと思います」

◎一般女子の部

26名が出場。決勝は、4年連続同じ顔ぶれとなり、岩本衣美里（クリンコーポレーション）と岩崎ほなみ（偶

成会高木道場）が対戦した。昨年同様、岩本はチントウ、岩崎はワンシユウをそれぞれ披露。判定は4―1で岩本が3連覇を達成した。

●優勝＝岩本衣美里選手

（クリンコーポレーション）

【大会結果】（※優勝のみ）

■組手団体戦

▽都道府県対抗Ⅱ埼玉県▽一般男子Ⅱ偶成会高木道場▽大学生男子Ⅱ明治大学▽一般女子Ⅱ立教大学▽少年男子Ⅱ白水修養会

■組手個人戦

▽一般男子有段Ⅱ重江賞誉（偶成会高木道場）▽大学生男子有段Ⅱ藤村浩一（東海大）▽一般女子有段Ⅱ矢野朱美（立教大）▽シニア男子50歳以上Ⅱ向井正隆（杉浦錬成塾）▽シニア男子40歳以上Ⅱ高柳伸彦（誠心塾）▽シニア女子40歳以上Ⅱ斉藤師保（一道塾）▽一般男子有級Ⅱ内田与弥（早稲田大学誠心会）▽一般女子有級Ⅱ金枝由希子（早稲田大学誠心会）▽少年男子Ⅱ遠藤功大（美濃）▽少年女子Ⅱ藤原ひかり（はさま）▽中学男子Ⅱ後藤大河（水風会名東）▽中学女子Ⅱ齊藤真美（川口会千葉）▽小学6年男子Ⅱ千葉良樹（はさま）▽小学6年女子Ⅱ岩佐和奏（美濃）▽小学5年男子Ⅱ小花大輝（越谷修道館）▽小学5年女子Ⅱ塙明日華（明

「初戦から決勝まで5―0で完勝することが目標でしたが、決勝でそれができずに少し残念です。しかし、落ち着いてきたので良かったと思います。今後は全空連の大会で全国一、世界一になることを目指します」

花塾）▽小学4年男子Ⅱ大谷功明（空手向上園内倶楽部）▽小学4年女子Ⅱ加藤朱莉（はさま）▽小学3年男子Ⅱ豊田陽也（本巣）▽小学2年男子Ⅱ千枝紘（はさま）▽小学1年男子Ⅱ舟田理々花（津）

■形個人戦

▽一般男子有段Ⅱ稲葉勇治（中京会）▽一般女子有段Ⅱ岩本衣美里（クリンコーポレーション）▽シニア男子40歳以上Ⅱ清水明毅（名空会研修センター）▽シニア女子40歳以上Ⅱ石井恵（日立茂原）▽一般男子有級Ⅱ齋藤雅彦（東京工科大）▽一般女子有級Ⅱ及川香（茂原）▽少年男子Ⅱ栗山來樹（偉竜修道館）▽少年女子Ⅱ鈴木美晴（東海大学翔洋高）▽中学男子Ⅱ小島浩暉（育英館碧南）▽中学女子Ⅱ赤岡万緒（岐刑）▽小学6年男子Ⅱ小島七海（津）▽小学5年男子Ⅱ舟田葵（津）▽小学4年男子Ⅱ白崎優乃香（福井）▽小学3年男子Ⅱ森岡未鈴（北方）▽小学2年男子Ⅱ石岡大和（昇政塾）▽小学1年男子Ⅱ福田蓮（空寿会）

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

金城 裕

日本武道館

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出会い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

(四六判・上製・372頁)

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授 菅野 純 著



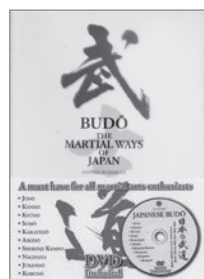
臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

(四六判・上製・410頁)

BUDO:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者 田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)

全国警察柔道・剣道 選手権大会

平成24年度全国警察柔道・剣道選手権大会は、9月7日、日本武道館で行われた。昨年は東日本大震災の影響により中止となったため、2年ぶりに警察柔道・剣道の個人日本一が争われた。

柔道男子は6階級、女子は2階級に分かれて行われ、男子無差別で**軒沢優太**（富山）が初優勝、女子63kg超級で**萩原久美子**（兵庫）が7連覇を遂げた（そのほかの階級は大会結果欄参照）。

剣道男子は高鍋進（神奈川）が3連覇、女子は山本真理子（大阪）が2連覇を果たした。



男子無差別決勝＝**軒沢優太**（富山）対**横四方固**（上）

男子無差別 **軒沢優太**（富山）が初優勝

柔道



女子63kg超級

萩原久美子（兵庫）が7連覇

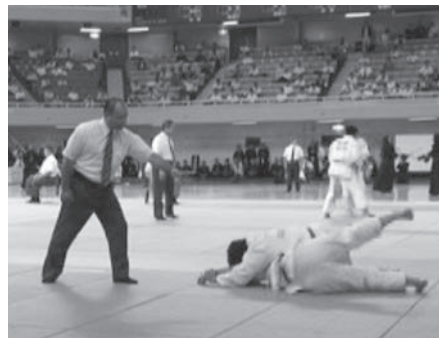


大会には、皇宮警察本部及び各都道府県警察から選抜された柔道と剣道の選手、355名が出場した。試合はトーナメント方式で行われ、柔道が5分間一本勝負、剣道が時間無制限の一本勝負で争われた。

■柔道

男女合わせて185名が出場した。男子無差別では、前回優勝の**棟田康幸**（警視庁）が怪我のため欠場。決勝は、**軒沢優太**（富山）と**横四方固**（佐賀）が対戦した。軒沢は、支釣込足（技有）で横四方を崩した後、すかさず横四方固に入り、合技で一本勝ちした。そのほかの階級では、100kg級で後小路裕朗（福岡）が3大会ぶり2回目、81kg級で松本雄史（兵庫）が3大会ぶり3回目の優勝を果たすなど

の活躍をみせた。



女子63kg超級決勝＝**萩原久美子**（兵庫）対**三戸**（上）が横四方固で勝利し、7連覇を遂げた

選手コメント

◎男子無差別優勝＝**軒沢優太**選手（富山）
「10年前、学生体重別で2位になって以来の好成績です。全国大会で結果が残せて嬉しいです。全日本選手権には何回か出場していますが、今年は予選で負けてしまいました。今回、その悔しさを晴らしました。31歳で年齢的にも厳しくなってきましたが、もう1ランク上を目指します」

◎女子63kg超級優勝＝**萩原久美子**選手（兵庫）
「いろいろな人に支えられてここまで来ました。とても感謝しています。連覇を続けられてよかったです。決勝よりも準決勝の市橋選手との試合がきつかったです」

女子は、63kg超級で**萩原久美子**、63kg以下級で**山本美樹**（共に兵庫）が優勝。63kg超級の**萩原**は、準決勝で市橋寿々華（大阪）を退け、決勝は**三戸彩渚**（神奈川）を横四方固で降し、7連覇を果たした。



男子決勝Ⅱ高鍋進(右)対内村

男子 高鍋進(神奈川)が3連覇

剣道



女子 山本真理子(大阪)が2連覇

■剣道

男子は122名が出場。トーナメント方式により、時間無制限の一本勝負で争われた。四強には高鍋進(神奈川)、内村良一(警視庁)、網代忠勝(兵庫)、小谷明德(千葉)が名を連ねた。

準決勝、高鍋対網代は、高鍋が小手を決めて網代に勝利。内村と小谷の対戦は、内村が面で小谷を退けた。決勝は高鍋と内村。共にこの大会



女子決勝=山本(左)対小池

選手コメント

◎男子優勝=高鍋進選手(神奈川)
「紙一重の試合が多かったです。決勝では内村選手の気迫に負けないう、ただそれだけを考えていました。」

勝ちを引きずりたくはありません。これはこれで終わり。次は来月の団体戦(全国警察剣道大会)の優勝を目指します」
◎女子優勝=山本真理子選手(大阪)
本大会の5日前に行われた全日本女子剣道選手権を制し、日本の女性剣士として臨んだ。

「せっかく全日本をとれたので、ここで負けて周りの人たちの落胆させたくはありませんでした。普段の練習試合では負けることが多いので、どんな時でも勝利できる選手になりたいです」

で優勝経験のある実力者同士の対戦。試合時間13分過ぎ、高鍋が面に出ようと間合を詰めると、内村の手元があがる。高鍋はその一瞬を狙い、小手を決めて勝利。大会記録に並ぶ3連覇を達成した。

女子は48名が出場。前回優勝者の山本真理子(大阪)が順当に勝ち進み、決勝で小池愛子(警視庁)と対戦。山本が鐙迫り合いからの引き面を決めて2連覇を果たした。

【大会結果】

◇柔道

〈男子〉

▽無差別Ⅱ① 軒沢優太(富山) ② 橋嶋誠(佐賀) ③ 青山正次郎(福岡)、遠藤剛(北海道)

▽100kg級Ⅱ① 後小路裕朗(福岡) ② 木下泰成(兵庫) ③ 村井栄輔(大阪)、金井宏樹(神奈川)

▽90kg級Ⅱ① 佐藤和幸(愛知) ② 中西努(神奈川) ③ 長尾翔太(兵庫)、森田晃弘(警視庁)

▽81kg級Ⅱ① 松本雄史(兵庫) ② 内門卓也(大阪) ③ 小出満(警視庁)、武藤力也(神奈川)

▽73kg級Ⅱ① 吉田優樹(兵庫) ② 宮前稔(神奈川) ③ 佐野望(京都)、藤本正寛(熊本)

▽66kg級Ⅱ① 三原弘士(警視庁) ② 三村賢吾(福岡) ③ 関根優一(埼玉)、渡部朋之(神奈川)

〈女子〉

▽63kg超級Ⅱ① 萩原久美子(兵庫) ② 三戸彩渚(神奈川) ③ 市橋寿々華(大阪)、山本志乃(広島)

▽63kg以下級Ⅱ① 山本美樹(兵庫) ② 垣田恵利(兵庫) ③ 坂野歩(警視庁)、

◇剣道

藤川美沙(大阪)

▽男子Ⅱ① 高鍋進(神奈川) ② 内村良一(警視庁) ③ 網代忠勝(兵庫)、小谷明德(千葉)

▽女子Ⅱ① 山本真理子(大阪) ② 小池愛子(警視庁) ③ 石塚芳(大阪)、正代小百合(警視庁)

待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

第1章 普及への意思

柔道史の原点
欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門
新大陸へ派遣第2号
異種格闘技に生きた前田光世
英国柔道の基礎―武道会
武道会を訪れた嘉納と高弟会田
小泉が語る英国柔道史
仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か
駐仏日本国大使 杉村陽太郎
続々と仏蘭西へ
海外より見た柔道―独逸通信
東洋への進出

異文化理解の容易なさ

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜
嘉納逝き連盟成らず

欧州から国際柔道連盟の結成
講道館長、国際柔道連盟に就任
世界柔道選手権大会開催

東京五輪招致成功
東京五輪と正式種目柔道

パリの仇
体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進
変わり行く柔道
不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

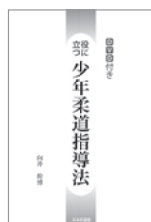
（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

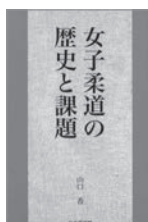


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）